

第42回 プロテオーム医療創薬研究会

【実施日】 2012年11月29日(木) 18:00~19:30

【会場】 横浜市立大学 福浦キャンパス D2 講義室

【来場者】 52名

【内容】

演題：「製薬業界の現状とエーザイの抗がん剤領域フランチャイズ化への道、そしてオープンイノベーションの重要性」

講師： エーザイ株式会社

エーザイプロダクトクリエーションシステムズ

シニアサイエンティフィックアドバイザー

吉松 賢太郎 氏

発表要旨： 医薬品業界は、2010年問題（主力製品の欧米における物質特許の失効による売上高の大幅な減少）に直面し、新薬承認審査の厳格化、医療費抑制策、後発品の使用促進策の影響を受ける一方、生活習慣病などの大きな収益を上げていた疾患に対する治療満足度の向上により、創薬対象領域のシフトや新規なターゲットに対する創薬、バイオリクスへの展開など、製薬企業各社は大きな変革期を迎えている。

エーザイは、1990年代後半にグローバルに上市を果たしたアリセプト（アルツハイマー病治療薬）、パリエット・アシフェックス（胃潰瘍、逆流性食道炎）により、大きな成長を遂げることが出来たが、その後の新薬創出には多くの困難があった。その中で、1987年に抗がん剤領域へ参入し、10化合物を臨床に進め、1992年に研究着手した天然物ハリコンドリンBからの全合成誘導体創薬研究プロジェクトからエリブリンが創出され、進行・再発性乳がんでの承認を2010年（米国）、2011年（日本、欧州）に取得した。また、1999年に研究着手した血管新生阻害剤創薬プロジェクトからマルチチロシンキナーゼ阻害剤レンバチニブが創出され、甲状腺がんフェーズⅢ、肝がんフェーズⅡなどの段階に進んでいる。さらに、抗体医薬の米国ベンチャーであるモルフォテックの買収を含め、抗がん剤領域での製品買収・企業買収等を行い、抗がん剤領域のフランチャイズ化を行った。また、脳神経領域では、AMPA受容体アンタゴニストであるペランパネルの難治性部分てんかんの適応で、最近

欧州での承認を取得した。

現在、新薬創出には、新たなテクノロジー、新たな治療コンセプトなど多くのイノベーションが必要であり、自社研究のみでそのイノベーションを起こしていくことは難しく、イノベーションの源泉であるアカデミア等との連携の重要性が大きくなっている。日本には良好なベンチャー企業为数が少なく、アカデミアで生まれたイノベーションを製薬企業が受け取れるまでに育成するシステムも欧米に比べて不十分・未成熟である。このような状況にあって、横浜市大の「翻訳後修飾プロテオミクス医療拠点」は、日本におけるアカデミアでの基礎研究と企業での創薬研究を繋ぐ重要な役割を担っており、横浜市大の研究者の皆様とエーザイの研究者との連携・共同研究の進展により、実りある成果が期待できると思っている。

